

吉村明の みつひかり 栽培日誌 1



吉村明 よしむら あきら
三井化学アグロ(株) 営業本部マーケティング部 ハイブリッドライス 種子グループ グループリーダー
1962年生まれ。1988年 北海道大学大学院農学研究科修了。同年 三井東圧化学(株) (現三井化学) 入社、農業資材開発に従事(北海道工業所勤務)。1996年 本社異動後、ハイブリッドライス事業開発を担当になる。2000年に事業ごと三井東圧農業(株) (現三井化学アグロ) に異動し、現在に至る。17年間「みつひかり」をライフワークに、全国を飛び回る。

はじめに

『農業経営者』読者の皆さま、このたび、ハイブリッドライス「みつひかり」についてご紹介させていただく機会を頂戴しました、三井化学アグロ(株) (主業は農薬の開発・製造・販売) の吉村明です。これまで、多くの生産者様にお会いし、いろいろな「みつひかり」を見て、調査して、多くの知見を得ることができました。また、まだ小さいながらも生産と実需(米卸・外食企業)をつなぐビジネスモデルが確立し、その取り組みがメディアで紹介されました。私自身、まだまだ「みつひかり」の魅力のすべてを把握しているわけはありません。私の持っている情報を、生育に合わせて「栽培日誌」という形でさまざまな角度からご紹介しながら、皆さまとともに、「みつひかり」への理解を深めたいと思っています。



「みつひかり物語」①

ハイブリッドライスとは……

今回より、①「みつひかり物語」(開発の経緯、品種特性、普及状況など)、②栽培のポイント、③弊社農薬のご紹介による構成で、9回の予定で連載します。お付き合いの程、よろしく願っています。

『ハイブリッド (HYBRID)』とは雑種という意味です。生物は遺伝的に遠縁の品種間で雑種をつくると、組み合わせによってはその1代目(F₁)に両親より優れた性質が現れ、しかも均一な特性を示します。この現象を雑種強勢(ヘテロシス)といえます。この現象は多くの農産物に利用され、現在、トウモロコシや大多数の野菜がハイブリッド品種となっています。

稲は自殖性で固定種が多く、ハイブリッド品種は採種が難しいために開発が遅れていましたが、1970

年代より食糧増産を目的に、国策で研究開発を進めた中国が実用化に成功して以来、広がりを見せています。固定種であれば、コメも種子も同じなので、自家採種が可能です。ハイブリッド品種の場合、種子を購入しなければ栽培できません。栽培したコメは雑種第2代(F₂)で、自家採種して栽培した場合は、メンデルの法則に従って、先祖がえりしてさまざまな形質を示します(図1)。ハイブリッドライスは一般に、「多収であるが、品質・食味が劣る」と言われてきましたが、当社の研究の粋を結集した結果、厳しい日本市場でも十分に戦えるおいしい品種を開発しました。

みつひかりの特性

みつひかりには、日本晴系の吸水性の高い「2003」と食味を改善したコシヒカリ系の「2005」の2品種があります。よく2003年、2005年と勘違いされますが、育成番号を品種名に入れており、年号とは関係ありません。種苗登録申請したのは95年と96年、共に00年に種苗登録され、現在に至っています。新しい品種のようですが、既に登録されてから14年以上経過しています。次号では、開発の経緯に触れます。

図1: 「ハイブリッドライス」と一般品種

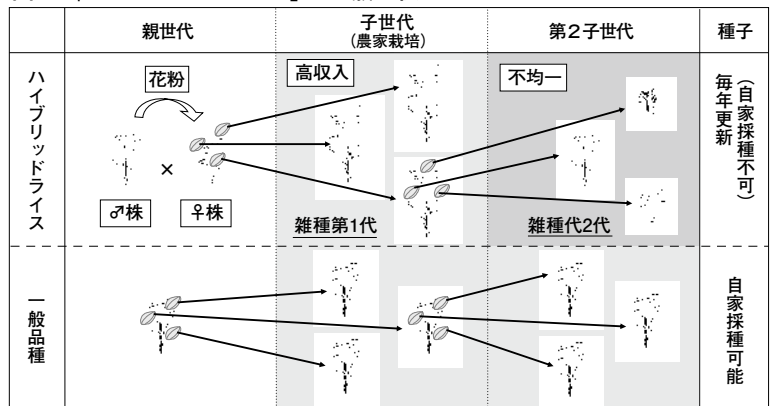


写真1: 収穫約2週間前のみつひかりの稲姿



神田 定義 さん (大分県)

「平成25年産のみつひかりは反収15.3俵（例年は14俵）とれた。他の多収といわれる品種をつくってみたが、みつひかりには敵わない。」

大分県久住高原（海拔600m）でみつひかり栽培8年目を迎えた神田定義さんは、独自の栽培体系を確立、みつひかり作りのベテランの一人。1947年生まれ、3年間の食糧事務所勤務を経て、実家の農業を引き継いだ。水稻18ha（うち請負6ha）のうち、みつひかりは6.7ha。「5月上旬に他の品種より先に植えて、みつひかりは最後に刈り取る。手間がかからなくていいんだ」と他の品種との組み合わせで作期を分散している。

「昨年は反収15・3俵とれました」

（大分県・神田定義さん）

図2：「みつひかり」と一般品種の穂の比較



栽培のポイント①

みつひかりは穂が大きい「穂重型」の稲で、日本の固定種に多い「穂数型」の稲とは栽培のポイントが大きく異なります（図2）。

開発当初の資料には、「青粉残存率10～15%が刈り取り適期、刈り遅れによる品質低下に注意」の文字がありました。この頃は「みつひかりは刈り取り判断が難しい」との間い合わせが多数寄せられていました。現在は「穂の下が熟れるまで刈り取りを待って、早刈りに注意」に変わりました。我われがみつひかりの持つ優れた品種特性を把握していな

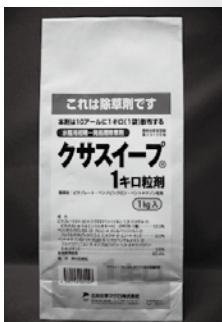
った実例の一つですが、「水稻」の常識的な先人観に捉われていたと反省しています。

以前は、「種子代が高い」「肥料代がかさむ」「倒伏する」「収量が上がらない」「コメが買い叩かれる」の五重苦だ、と叱責されたこともありましたが、しかし、実需側からの「みつひかりって本当に割れないよね」という一言に「何かが違う」と気づき、多くのみつひかりの稲を見て、調査・分析しました。その結果、基本的な栽培のポイントを改めて見出すことができました。

この連載を通じて、過去の誤った認識を一新してみつひかりの魅力を伝えたいと思います。

協力：
三井化学アグロ株式会社 営業本部 マーケティング部
ハイブリッドライス種子グループ
〒105-7117 東京都港区東新橋 1-5-2
汐留シティセンター
TEL：03-3573-9869 FAX：03-3573-9891

水稻除草剤モニター募集キャンペーン



対象製品

クサスイーブ® 1キロ粒剤

（有効成分）
ピラゾレート………12.0%
ペントキサゾン………3.6%
ベンゾビシクロン………2.0%

特長

- 田植同時処理機での施用が可能です。
- 初期の防除でノビエの生育を長期間抑えます。
- スルホニルウレア抵抗性の雑草にも効果が期待できます。

- キャンペーン期間：2月末日の到着分まで
 - 募集人員：5名（決定後に三井化学アグロ様よりご連絡いたします）
 - 募集方法：住所・氏名・電話番号・栽培面積をご記入の上、下記住所までハガキで応募してください。
- 送付先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-34-8 大輝ビル 302号「クサスイーブモニター係」

三井化学アグロ株式会社